スクールソーシャルワーカーだより　66

××
▲▲▲
◆◆しかく

○○○

私たちの社会では、トラブルが起きないように『決め事』を作ります。とくに重大なトラブルについては、法律が決められています。

この年末、ぼんやりとテレビを眺めていました。たまたま耳に残った言葉が冒頭の「カギは…」でした。ぼんやり聞きながら、「そうだな。悪者はカギが掛かっていても盗むから、カギは正直な人が入って来ないようにしているだけなのだな」と思ったのです。

日頃からわたしは、スマホを買い与える時の約束が大事だと言っていますが、約束は「正直者の誘惑を抑える」カギと同じもの、つまり、親子に信頼関係がなければ約束は成り立たないという事に気付いたのでした。

わたしはこれまで、なんと浅い考えでアドバイスしていたのか、反省させられています。

☆

信頼関係は、約束を守った回数に比例して深まって行くこと、反対に、約束を破ると、それまでの信頼関係がご破算になってしまう事もあると、わたしは知っています。

子育てに関わる人と子どもとの信頼関係がある、さらに言うと、子どもに対して親が権威を持っている家庭に育つ子について、カウンセラーやソーシャルワーカーが相談を受ける機会は、あまりないのかも知れません。

★

親子の信頼関係、親の権威といった、目に見えない、感覚的な関係は、数学の公式のように、ある事を何回したら出来上がる、そんなものではありません。

親子だけが向き合っている状態しかないとしても、親が別の場所で、別の時間に、別の人との人間関係を持っていて、親子で向き合う場合も、基本的にお互いをいとおしく感じていなければ、信頼関係は生まれないのではないでしょうか。

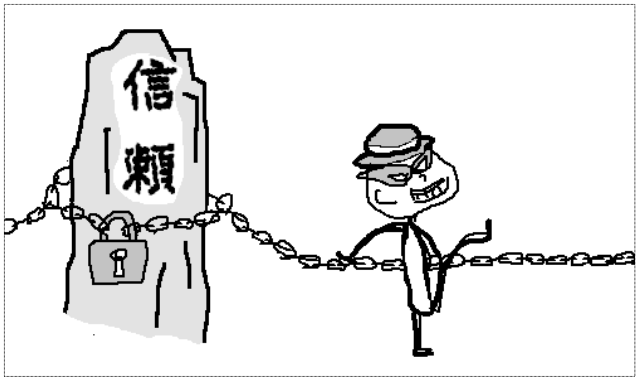
どんなに疲れて帰宅しても、いとおしい子どものために何かしてあげる、その思いを受ける子どもは、親に感謝を抱くのだと思います。

その感謝を持っているから、親が大事にしているものがあれば、子どもも無条件にそれを大切に思うのかも知れません。

☆★

ゲーム依存の状況にある子どもに必要なのは『育ち直し』なのかも知れません。

自分が生きている事への感謝の気持ちを持つことが出来れば、親の言葉に逆らって深夜までゲームをしないのかも知れません。

では、どうやれば生きている事への感謝を抱くようになるのでしょう。

案外、一緒に食事をする事が始まりなのかも知れない、漠然と、そう感じています。